

鶴見川水系河川整備計画（原案）及び鶴見川流域水害対策計画（原案）に係る住民説明会 質疑要旨

場所：鶴見会館 高砂の間

日時：平成 18 年 9 月 21 日 19:00～21:00

参加者質問・意見内容	事務局回答
<ul style="list-style-type: none"> 河川敷の雑草、ヨシ等が水の流れを妨げ、洪水の可能性が高くなっているため、野焼きをするなどしていたが、煙の問題などが出て、どう対処したらいいか。また、治水事務所の取り組みで不法耕作が無くなったが、そこに雑草が生えてきて、流れの妨げになるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な話になるが、高水敷の雑草について、今はどこまでの草の高さなら流れを阻害しないかという事が判るようになってきている。それを踏まえて、現在の状況であれば流れを阻害しない、今のままで十分に目標への対応が可能である。（京浜） 野焼きの件に関しては、関係各方面と検討したい。（京浜）
<ul style="list-style-type: none"> 鶴見川多目的遊水地について、運用後浸水被害が無くなったという事で住民の間に安心感が広がっているが、まだ浸水被害の可能性が無くなったわけではないという国交省の資料もある。河川整備計画の目標である 30 年間に、指摘された雨量が降る事もあり得るので、現在遊水地の地盤が T.P.4m と 2.5m の 2 段になっているが、2.5m に統一して容量を確保する必要があるのではないか。 土壌の PCB 汚染への対応を進めて欲しい。 多目的遊水地については公園利用ではなく、遊水地としての機能が第一ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 水害に対応する整備というのは簡単にできないので、ステップアップして対応していくという形になる。多目的遊水地以外の施策との関連もあり、多目的遊水地があれば安全である、ということではない。（京浜） 地盤については、当初多目的遊水地の場所には公園が考えられており、国との共同事業として多目的遊水地と公園を作る事で、治水と公園利用両方を満足するプランとして現在の多目的遊水地の形になっている。日産スタジアムは、ピロティ方式でグラウンドを 2 階にしている。これはグラウンドの下に、越流した水が入れられるようになっている。もっと大きい水害に対応できればよいのだが、当面、河川整備計画で示した目標を確保する形で進められている。（京浜） PCB 汚染について、土壌は 20 万 m³ あるが、実際に汚染されているのは 10 万 m³ で、この 10 万 m³ のうち、高濃度汚染土壌である 5 万 m³ は平成 22 年までに処理を行う。残りは引き続き処理を進めていく。（京浜） 新横浜公園は多目的遊水地内なので、京浜河川事務所と調整の上、平常時に公園として利用できるような形で整備している。安全確保という面では、避難計画の検討、人の巡回などにより対応を進めている。（横浜市）
<ul style="list-style-type: none"> 今回の計画は、鶴見川流域水マスタープランのアクションプランとして位置づけられていると思うが、他のアクションプランについても進められているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の両計画は大きな意味で鶴見川流域水マスタープランのアクションプランと言ってもよい。これ以外のアクションプランも進めており、例えば消防部局が入った防災のアクションプランなども検討している。これらについても今後順次進めていく。（京浜）

参加者質問・意見内容	事務局回答
<ul style="list-style-type: none"> ・鶴見区で防災キャラバンを実施するので、協力をお願いしたい。それまでに、これまで進められてきた治水事業に、どのくらいお金が使われたか調べて欲しい。 ・ポンプ運転調整の基本的な考え方、情報の共有の体制についていつまでに作るのか教えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災キャラバンまでには調べる事ができると思う。(京浜) ・ポンプ運転調整については、ポンプを止めると内水被害が生じる可能性があり、また、河川の水位が上限を超えると破堤する恐れがあるので、2つの要素のバランスを見ながら、適切な方法について横浜市と調整して進めていきたい。(京浜) ・情報の共有の体制については、引き続き検討していく。(京浜)
<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップについて、その内容を更新していく必要があるのではないか。また、1/150 などという非現実的な降雨量を想定するのではなく、1/10 などの現実的な数値でマップを作るべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マップが 1/150 で作られている事について、中途半端な 1/30 などの数字を出してしまうと、水が来ないと安心してしまう可能性があるため、最大限はここまで来るだろうという浸水区域を示している。(京浜) ・横浜市では防災部局がハザードマップを順次作っている。現実的な対応については、今後どういう形にしていくか検討を進めていきたい。(横浜市) ・ハザードマップの作り方についても工夫していく必要があり、市民に分かりやすいものにする必要があると考えている。(京浜)
<ul style="list-style-type: none"> ・結局、狩野川台風に対応できるのは放水路を作った後になるという意味なのか。多目的遊水地を 4 m から 2.5 m に掘削して容量を稼ぐのと、放水路を造るのでは、どちらが費用対効果が高いのか。 ・公園からの避難は具体的にはどうするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画においては、放水路を作らなくても、目標を達成する事が可能である。(京浜) ・避難については、緊急時のマニュアルを既に作成しており、今までの雨の実績を基に、水が公園に入ると予測される時刻の 2 時間前には対応し、また誘導の人と警戒の車を用意して対応する事になっている。(横浜市)
<ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画 P 48 の掘削の図で、垂直護岸の所まで土砂を掘削する事になっているが、河口付近の干潟や浅瀬は生物にとって重要なところなので、掘削しないようにはできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・-2km～0km あたりは、河道の真ん中付近を掘る事になっている。また、貝殻浜の干潟は残す事になっている。河口の水際部両側を少し残して、真ん中を掘るような工夫をして、できるだけ護岸付近の浅瀬を残すよう配慮する。(京浜)